

本日の学び:「永遠の契約を結ぶ」 テキスト:エレミヤ32章36～44節

【理解の手がかりとして】

この 32 章は、エレミヤがアナトの畑を購入することによって、ユダに平和が戻り、人々の日常生活が再開される日が来ることを象徴的に表す内容である。大きく分けると 2 部(1～15 節:その象徴行為の既述/16 節以下:それをめぐるエレミヤと主の長い対話) である。

時は、紀元前 588 年春から 587 年の春の間、バビロン軍のエルサレム包囲中に、エレミヤは王の宮殿内に拘禁されていた。その理由が 3 節以下にある。エレミヤがデゼキア王に対して、エルサレムの陥落と、王の不幸な運命を告げたためであった。王はエレミヤの過激な発言が民衆に及ぼす悪影響を恐れて拘禁したのである。そして後に王の運命はエレミヤの預言の通りになる。⇒(39:1-7、52:7-11)

6-15 節は小見出しにあるとおり「アナトの畑を買う」という内容。伯父シャルムの子ハナムエル(エレミヤのいとこ)が、なぜ畑を買うようエレミヤに求めたのか、危険が迫っていると感じて土地を離れるのか、借金の肩代わりか、——古代イスラエルでは一族の者が先祖伝来の土地を失わないように、近親者が優先的に買い取る責任と権利を有した(レビ 25:25-32)——その人間的な事情はさておき、エレミヤは、これが主の意志であることを確言して(32:8)、自分の一族の土地であるアナトの土地を買う。12 節に登場するバルクはエレミヤのために口述筆記する書記である。

「アナトの畑購入は、神の救いを預言する象徴行為、バビロン軍による包囲という最も暗く絶望的な状況のただ中で、この回復のメッセージが与えられているところに深い意味がある。」(『新共同訳 旧約聖書註解 II』)

16-44 節は「エレミヤの祈り」。エレミヤの祈り(32:17-25)に対して主の答え(27-44 節)が与えられる。畑購入の行為が持つ意味についてエレミヤが問い、主がそれに答えるのである。

■ エレミヤの祈りの内容

- ◇ 神の力への賛美～天地を造られた方(32:17)全能の方(32:17)各人の行いに報いる方(32:19)奇跡を行われる方(32:20)エジプトを脱出させてくださった方(32:21)約束の地を賜ってくださった方(32:22)
- ◇ 民の背信の現実～主の声に聞き従わず、律法に従って歩まなかった(32:23)
- ◇ その結果～都(エルサレム)は陥落し、滅ぼされようとしている(32:24)
- ◇ いまさらの土地所有への問い(32:25)

■ 主の答えの内容

- ◇ わたし(主)の力が及ばないところはない(32:27)バビロンにユダを渡し占領させる(32:28-29)
- ◇ イスラエルの罪の内実(エルサレムの都が建てられた日から今日まで、悪を行い、主を怒らせてきた。王から民まですべて同罪である。主に顔を向けず、戒めを守らず、偶像を拝み、神殿を汚してきた)(32:30-35)
- ◇ 「しかし今や」という大転換(32:36)ユダの民を集め、帰らせ、安らかに住ませる(32:37)そうして「わたしの民」「彼らの神」となる(32:38)彼らは「一つの心」でわたしに従う(32:39)永遠の契約を結び、子孫に恵みを与える。彼らから離れない(32:40)恵みを与えることを喜び彼らをその土地に定着させる(32:41)——災いから恵みへの転換(32:42)

☆ 繁栄の回復～銀を支払い、証書を作成し、封印をし、畑を買う(32:43-44)

「ここには、契約の神が怒りと裁きの神であるよりも、恵みの神なのだとのエレミヤ書の究極的な神認識が示されている。」(『新共同訳 旧約聖書註解II』)

ここで 17 節の「ああ、主なる神よ」というエレミヤの祈り言葉に注目したい。左近淑氏は言う。「『ああ、主、ヤーウェよ』という言葉はまず第一に、本当に〈他〉なるものとして神に出会った時に発せられる」(『左近淑著作集 別巻 聖書研究』より)と。第二には「ヤーウェの意志と預言者の意志との間の〈無限の距離〉を表」(同)し、第三に「神の大いなる〈自由〉に〈圧倒〉されている事態を示す」(同)と。

エレミヤは預言者として、人間としての限界の自覚、神との間の無限の距離、そして神の自由な決意の前に圧倒される経験をしたのである。左近氏は述べる。「信仰者はいつの時代にも自らの奥深くに、この『ああ、主、ヤーウェよ』という叫びをもってきたはずである。…今日もみ言葉に生きる人が求められている。…それは神との距離と神の圧倒にある。それが今日回復さるべき第一のことである。」(同)

『聖書教育』より

- 「神さまはイスラエルの土地と繁栄の回復を語ります。それは権利として所有するためではなく、遣わされた土地においてどのように生きるかを神さまに問われることです」(大人クラス)——「繁栄」とは何か、それは「どのように生きるか」という問いと常に背中合わせであるということに気づかされます。